## 高倉　達雄 名誉教授

本学名誉教授高倉達雄先生は、去る８月８日に逝去されました。享年76歳でした。

先生は、大阪帝国大学物理学科を卒業され、大阪市立大学理工学部助手を経て、昭和29年10月に東京大学東京天文台に着任されました。以来、本学に在籍され、同46年10月から停年退職されるまでの14年間は、理学部天文学教室において、研究と後進の指導教育に努められました。

先生は、大阪帝国大学大学院特別研究生としてレーダーやマイクロ波電子管等の研究をされていた折、当時同じく研究生で後にＸ線天文学を開拓発展させられた故小田稔先生らと共に、太陽電波の検出実験へ参画なさいました。第二次大戦後、色々な国で、レーダーの部品を集めて、宇宙に電波の目を向ける電波天文学が始められた頃のことでした。先生も、旧海軍潜水艦に搭載されていたレーダー受信機を改造され、探照灯架台に取り付けた手造りホーンアンテナを使い、幾多の試行錯誤の末に、太陽電波の受信に成功されました。これが日本での電波天文学の始まりでした。

東京大学東京天文台に新設された天体電波部に移られてからは、その基礎を築かれると共に、急逝された故畑中武夫先生の後を引き継いで観測所の設置に尽力され、何名かの部員の方々と共に、適地探し、装置立案、用地交渉、概算要求等の重責をこなされ、昭和42年に野辺山太陽電波観測所の建設開始に漕ぎ着けられました。先駆者としての草創期のご苦労は多かったと想像しますが、そのお蔭で、日本の太陽電波天文学は飛躍し、現在、野辺山の地には電波ヘリオグラフの威容と数々の成果を誇る太陽電波観測所に加えて宇宙電波観測所が設置され、彼地は世界第一線の研究の場となりました。

その間、先生は太陽フレアに伴って発生する電子が磁場制動放射機構によりマイクロ波バーストを発生させる理論を完成させ、高い評価を受けられています。研究の進展と共に、先生の目は太陽Ｘ線に向けられるようになりました。初期の太陽電波研究からの先輩であられる故小田稔先生（当時宇宙科学研究所）の研究室と共同で造った硬Ｘ線望遠鏡を搭載し、昭和56年に打ち上げられた、日本初の太陽観測衛星「ひのとり」を使った太陽フレアの研究で、多くの成果を挙げられました。

本学退官後も暫くは、ほぼ毎日天文学教室にお越しになり、様々な雑務から解放されて研究に打ち込めるのを楽しまれているご様子でした。先生の誠実で温厚なお人柄と相俟って、この様にこつこつと努力を積み重ねていく姿勢は、多くの方々から敬服されていらっしゃいました。教室で息抜きに囲碁をなさる姿を拝見すると共に、ご自宅の地域のお仲間とよくテニスを楽しまれていたとも伺っております。

ここに先生のご功績とお人柄を偲び、心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（大学院理学系研究科・理学部）